

社会福祉法人夏秀会 2025 年度事業報告
2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

社会福祉法人 夏秀会
理事長 玉田 夏美

1. 事業の成果

2025 年度の入居者に若干の変動はあったものの、新規の入居もことなく空室を埋めることができた。稼働率の可能な限り数値を向上させることが小規模事業所の運営にとって重要な課題となるため、退去等の予想に際し適切に関係機関へのアプローチを実施してきた。近年の高齢者の減少傾向と合わせて、近隣市内の施設数の増加も合わせ、入居者の争奪が顕在化してきている。また、入居者の減少に合わせ、介護の現場で働く職員の求人難も毎年、悪化の状況は継続している。派遣社員や職員紹介専門業者からのセールスは多いものの、コストおよび職員の資質の点では大きな疑問点ある者が大半で、適切な資質を有する職員の確保は非常に困難な状況である。このような状況下で、既存の職員の国家資格取得に向け、年度内で複数回の国家試験対策勉強会を開催してきた。

本年度は定期的(1 回/二か月)に運営推進会議を実施し、地元の民生児童委員、行政担当者、入居者ご家族と施設職員を交えて、施設運営の透明化を目指してきた。年度後半より、運営推進会議を ZOOM ミーティングを使用し、在宅環境のまま運営推進会議に参加できるよう働きかけこの WEB を使った会議は定着してきている。この運営推進会議において、毎回身体拘束及び虐待防止委員会を開催し、その時の議事録を全職員と共有している。

認知症ケアにおける「自立共生社会の実現を推進するための認知症基本法」制定から、当事業所においても入居者の意思の尊重や職員全体の認知症の正しい理解を促進するための活動を活発に実施。認知症の人の自立する思いを尊重することと、それに伴う事故のリスクを、どのように考え、両立させることができるか。その課題を現在も職員全体の共通課題として学びを広げている。今後、地域社会に対し、更なる認知症の理解を深めるための啓蒙活動を拡大していくよう、認知症当事者のシンポジウムの運営に協力した。